



令和5年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和5年8月10日

上場会社名 ジョルダン株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3710 URL <https://www.jorudan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 俊和
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画室長 (氏名) 岩田 一輝 (TEL) 03-5369-4051
 四半期報告書提出予定日 令和5年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年9月期第3四半期の連結業績 (令和4年10月1日～令和5年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年9月期第3四半期	2,317	17.3	12	—	43	△62.4	△178	—
4年9月期第3四半期	1,975	2.8	△60	—	115	47.9	41	615.8

(注) 包括利益 5年9月期第3四半期 △178百万円(—%) 4年9月期第3四半期 71百万円(159.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年9月期第3四半期	△34.92	—
4年9月期第3四半期	8.08	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
5年9月期第3四半期	5,709	4,696	81.8
4年9月期	5,822	4,969	84.7

(参考) 自己資本 5年9月期第3四半期 4,667百万円 4年9月期 4,932百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年9月期	—	0.00	—	6.00	6.00
5年9月期	—	0.00	—	—	—
5年9月期(予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年9月期の連結業績予想 (令和4年10月1日～令和5年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	13.1	110	—	130	△33.7	△90	—	△17.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) 株式会社エアーズ、除外 1社(社名)

(注) 株式会社エアーズについては、みなし取得日を第1四半期連結会計期間末としているため、第2四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

5年9月期3Q	5,255,000株	4年9月期	5,255,000株
5年9月期3Q	154,280株	4年9月期	154,280株
5年9月期3Q	5,100,720株	4年9月期3Q	5,110,458株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

発行済株式数に関する注記

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績等は、今後の経済情勢、市場動向に関わるリスクや不確定要因等により変動する可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（令和4年10月1日～令和5年6月30日）におきましては、ウィズコロナの下で、わが国の景気は緩やかに持ち直してまいりました。但し、世界的な金融引き締め等が続く中、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなっております。

情報通信業界におきましては、企業のソフトウェア投資は緩やかに増加しており、情報サービス業及びインターネット付随サービス業の売上高についても前年同四半期（令和3年10月1日～令和4年6月30日）と比べ増加傾向となっております。また、1世帯当たりのインターネットを利用した支出についても増加となりました。このような中、生成AIを始めとするAI（人工知能）技術の高度化・実用化の進展等、情報通信に関する市場環境の変化は更に加速してまいりました。また、交通サービスの領域におきましても、「MaaS（Mobility as a Service）」（モビリティのサービス化）の流れが進展してまいりました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響を契機とした移動や外出についての質的・量的変化は、「MaaS」の展開にも大きな影響を与えております。

当社グループにおきましても、この市場環境の変化に対応した事業展開のための基盤整備に取り組んでおり、「乗換案内」の各種インターネットサービスは多くの方々に広くご利用いただくに至っております。現状においては新型コロナウイルス感染症の影響等を受けておりますが、人々の移動需要の持ち直しを含め足下の回復傾向は続いており、今後の更なる回復にも期待を持てる状況となっております。

このような環境の中で、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は2,317,065千円（前年同四半期比17.3%増）、営業利益は12,798千円（前年同四半期は60,537千円の損失）、経常利益は43,252千円（前年同四半期比62.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は178,141千円（前年同四半期は41,308千円の利益）という経営成績となりました。

売上高につきましては、ソフトウェア事業セグメントの売上高がやや減少したものの、乗換案内事業セグメント及びハードウェア事業セグメントの売上高が大きく増加したこと等により、全体として前年同四半期と比べ大きく増加いたしました。また、売上高が増加した影響等により、営業利益につきましても前年同四半期には損失が発生していたものが当第3四半期連結累計期間には利益の計上に至りました。経常利益につきましては、為替差益の減少の影響が大きく、前年同四半期と比べ減少いたしました。親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては、固定資産売却益の発生があったものの、減損損失の発生の影響が大きく、当第3四半期連結累計期間においては損失が発生いたしました。

セグメント別の経営成績の状況は、次のとおりです。

乗換案内事業

乗換案内事業では、モバイル向け有料サービス等の売上高が前年同四半期と比べ減少したものの、法人向けの事業の売上高が大きく増加し、広告等の売上高もやや増加したこと等により、セグメント全体の売上高も大きく増加いたしました。また、これに伴い、セグメント全体の利益も大きく増加し、前年同四半期と比べほぼ倍増となりました。

それらの結果、売上高1,880,071千円（前年同四半期比14.5%増）、セグメント利益252,461千円（前年同四半期比97.4%増）となりました。

マルチメディア事業

マルチメディア事業では、出版関連事業における売上高が前年同四半期と比べ減少したこと等により、セグメント全体の売上高は減少いたしました。一方で、費用削減に努めており、損益面では前年同四半期並みとなりました。

それらの結果、売上高6,251千円（前年同四半期比47.8%減）、セグメント損失10,360千円（前年同四半期は10,650千円の損失）となりました。

ソフトウェア事業

ソフトウェア事業では、前年同四半期において新規案件の受注・納品が順調に推移したことの影響もあり、セグメント全体の売上高は減少いたしました。また、これに伴い、セグメント全体の利益も減少いたしました。

それらの結果、売上高309,976千円（前年同四半期比10.8%減）、セグメント利益35,294千円（前年同四半期比

45.4%減)となりました。

ハードウェア事業

ハードウェア事業では、第1四半期連結会計期間末から株式会社エアーズを連結の範囲に含めた影響等により、セグメント全体の売上高は前年同四半期と比べ大きく増加いたしました。一方で、費用も大きく増加したため、損失が拡大いたしました。

それらの結果、売上高193,168千円(前年同四半期比349.1%増)、セグメント損失44,971千円(前年同四半期は24,336千円の損失)となりました。

その他

その他セグメントでは、売上高は前年同四半期と比べ減少いたしました。これに伴い、損益面でも損失が発生いたしました。

それらの結果、売上高7,558千円(前年同四半期比36.2%減)、セグメント損失2,659千円(前年同四半期は694千円の利益)となりました。

なお、上記のセグメント別の売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しておりません。また、セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書における営業損益をベースとしておりますが、各セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間の内部取引費用の控除前の数値であり、合計は連結営業損益と一致しておりません。

前年同四半期まで「その他」に含まれていた「ソフトウェア事業」及び「ハードウェア事業」について、重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末(令和4年9月末)と比較しますと、資産は112,575千円減の5,709,466千円、負債は160,261千円増の1,012,882千円、純資産は272,837千円減の4,696,583千円となりました。

資産

資産は、流動資産につきましては、369,320千円減の4,087,065千円となりました。これは、受取手形、売掛金及び契約資産が96,519千円増の669,751千円となった一方で、現金及び預金が441,600千円減の3,204,556千円、貸倒引当金が33,336千円増の51,084千円となったこと等によるものです。受取手形、売掛金及び契約資産並びに貸倒引当金の増加は、株式会社エアーズの株式を取得し新たに連結子会社としたため、同社の受取手形、売掛金及び契約資産並びに貸倒引当金が新たに計上されたこと等によるものです。現金及び預金の減少は、有形固定資産の取得及び子会社株式の取得等によるものです。

固定資産につきましては、256,745千円増の1,622,400千円となりました。これは、有形固定資産が238,840千円増の769,470千円、無形固定資産が11,367千円減の121,259千円、投資その他の資産が29,271千円増の731,670千円となったことによるものです。有形固定資産は、事務所用の不動産を取得したこと等により、大きく増加いたしました。無形固定資産は、取得に伴う増加の一方で償却等による減少も進み、全体としては大きな金額の変動はありませんでした。投資その他の資産は、その他に含まれる長期前払費用の増加等により、やや増加いたしました。

負債

負債は、流動負債につきましては、143,673千円増の973,847千円となりました。これは、その他が31,318千円減の49,448千円となった一方で、支払手形及び買掛金が60,690千円増の225,243千円、契約負債が101,539千円増の525,416千円となったこと等によるものです。その他の減少は、未払金の減少等によるものです。支払手形及び買掛金の増加は、売上原価の増加等によるものです。契約負債の増加は、株式会社エアーズの契約負債が新たに計上されたこと等によるものです。

固定負債につきましては、16,588千円増の39,035千円となりました。

純資産

純資産は、株主資本につきましては、266,651千円減の4,587,155千円となりました。これは、資本剰余金が57,905千円減の454,515千円、利益剰余金が208,745千円減の3,976,799千円となったことによるものです。資本剰余金の減少は、子会社株式の追加取得によるものです。利益剰余金の減少は、親会社株主に帰属する四半期純損失の発生並びに剰余金の配当によるものです。

その他の包括利益累計額につきましては、1,577千円増の80,549千円となりました。

非支配株主持分につきましては、7,763千円減の28,877千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,646,157	3,204,556
受取手形、売掛金及び契約資産	573,231	669,751
商品及び製品	23,276	16,997
仕掛品	150	712
原材料及び貯蔵品	58	40
前渡金	51,641	62,883
その他	179,619	183,210
貸倒引当金	△17,748	△51,084
流動資産合計	4,456,386	4,087,065
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	168,651	280,923
機械装置及び運搬具（純額）	3,688	2,733
工具、器具及び備品（純額）	96,715	71,394
土地	261,575	414,419
有形固定資産合計	530,630	769,470
無形固定資産		
ソフトウェア	131,098	119,731
その他	1,528	1,528
無形固定資産合計	132,626	121,259
投資その他の資産		
投資有価証券	434,529	426,950
敷金及び保証金	179,226	163,285
長期貸付金	14,640	15,140
繰延税金資産	57,945	61,163
その他	32,017	83,069
貸倒引当金	△15,960	△17,938
投資その他の資産合計	702,398	731,670
固定資産合計	1,365,655	1,622,400
資産合計	5,822,041	5,709,466

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	164,553	225,243
1年内返済予定の長期借入金	9,996	15,636
未払費用	52,445	56,746
未払法人税等	26,063	32,100
未払消費税等	24,488	22,876
契約負債	423,877	525,416
賞与引当金	46,581	44,878
役員賞与引当金	1,400	1,500
その他	80,767	49,448
流動負債合計	830,173	973,847
固定負債		
長期借入金	20,008	36,641
その他	2,439	2,394
固定負債合計	22,447	39,035
負債合計	852,620	1,012,882
純資産の部		
株主資本		
資本金	277,375	277,375
資本剰余金	512,421	454,515
利益剰余金	4,185,545	3,976,799
自己株式	△121,534	△121,534
株主資本合計	4,853,807	4,587,155
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	78,972	80,549
その他の包括利益累計額合計	78,972	80,549
非支配株主持分	36,641	28,877
純資産合計	4,969,421	4,696,583
負債純資産合計	5,822,041	5,709,466

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年10月1日 至 令和4年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年10月1日 至 令和5年6月30日)
売上高	1,975,862	2,317,065
売上原価	1,050,448	1,295,357
売上総利益	925,414	1,021,708
販売費及び一般管理費	985,951	1,008,909
営業利益又は営業損失(△)	△60,537	12,798
営業外収益		
受取利息	828	3,484
受取配当金	1,478	1,479
為替差益	125,297	5,145
受取事務手数料	245	245
助成金収入	47,082	21,793
受取家賃	6,972	6,088
雑収入	310	1,009
営業外収益合計	182,214	39,245
営業外費用		
支払利息	14	219
持分法による投資損失	864	829
投資事業組合運用損	494	958
貸倒引当金繰入額	253	2,250
賃貸収入原価	4,681	2,509
雑損失	277	2,024
営業外費用合計	6,587	8,791
経常利益	115,090	43,252
特別利益		
固定資産売却益	-	69,044
特別利益合計	-	69,044
特別損失		
固定資産除却損	9,673	327
減損損失	-	237,623
投資有価証券評価損	17,073	-
投資有価証券清算損	-	3,543
特別損失合計	26,746	241,494
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	88,343	△129,197
法人税等合計	50,860	50,533
四半期純利益又は四半期純損失(△)	37,483	△179,731
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,825	△1,589
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	41,308	△178,141

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年10月1日 至 令和4年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年10月1日 至 令和5年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	37,483	△179,731
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	34,147	1,498
その他の包括利益合計	34,147	1,498
四半期包括利益	71,630	△178,233
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	74,859	△176,564
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,228	△1,668

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 令和3年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する会計上の見積りにおいて、前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載いたしました仮定に重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 令和3年10月1日 至 令和4年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	乗換案内 事業	マルチ メディア事業	ソフト ウェア事業	ハード ウェア事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	1,636,611	11,975	272,411	43,012	1,964,011	11,851	—	1,975,862
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5,409	—	75,075	—	80,484	—	△80,484	—
計	1,642,020	11,975	347,487	43,012	2,044,496	11,851	△80,484	1,975,862
セグメント利益又は 損失(△)	127,902	△10,650	64,692	△24,336	157,607	694	△218,839	△60,537

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報関連機器リース業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 令和4年10月1日 至 令和5年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	乗換案内 事業	マルチ メディア事業	ソフト ウェア事業	ハード ウェア事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	1,877,051	6,242	233,043	193,168	2,309,507	7,558	—	2,317,065
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	3,019	9	76,933	—	79,961	—	△79,961	—
計	1,880,071	6,251	309,976	193,168	2,389,468	7,558	△79,961	2,317,065
セグメント利益又は 損失(△)	252,461	△10,360	35,294	△44,971	232,423	△2,659	△216,965	12,798

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報関連機器リース業等を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△216,965千円には、のれん償却額△10,101千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△206,863千円が含まれております。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結累計期間まで「その他」に含まれていた「ソフトウェア事業」及び「ハードウェア事業」について、重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ハードウェア事業」セグメントにおいて、のれん等の減損損失237,623千円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「ハードウェア事業」セグメントにおいて、株式会社エアーズの株式を取得したことに伴い、のれんが増加いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、202,035千円であります。

また、当該のれんの減損損失を計上しております。当該事象によるのれんの減少額は、191,933千円であります。